

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

新潟県見附市 見附市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	8	-	訓	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
41,190	7,150	非該当	10 : 1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

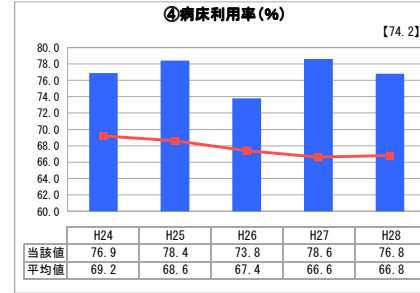
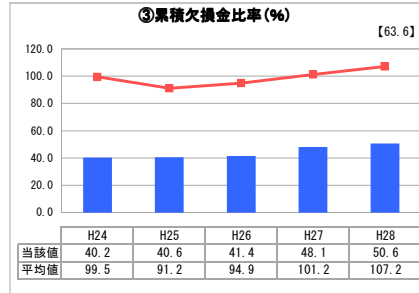
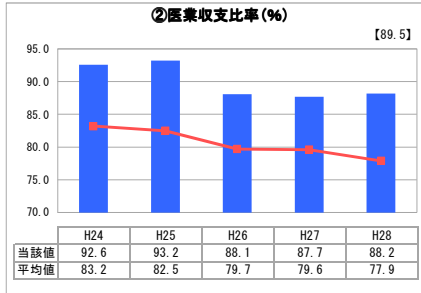
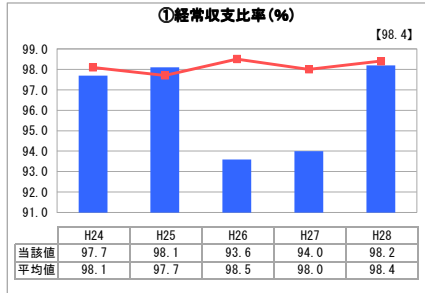
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
94	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	94
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
94	-	94

**グラフ凡例**

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性

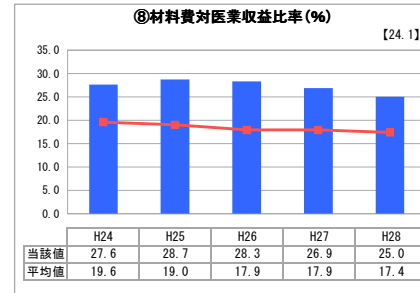
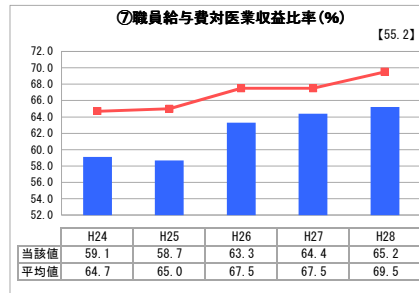
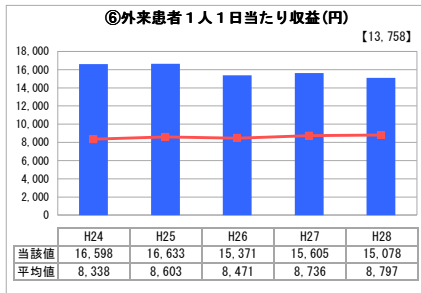
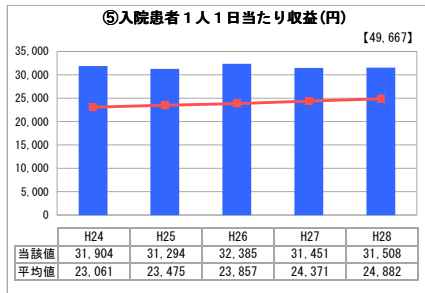


「経常損益」

「医業損益」

「累積欠損」

「施設の効率性」



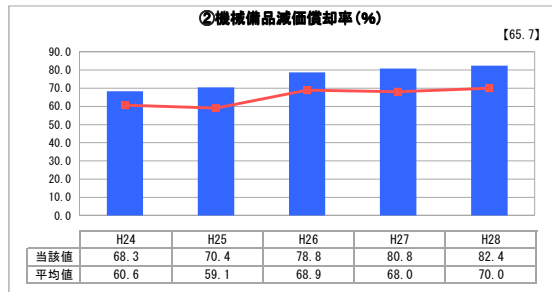
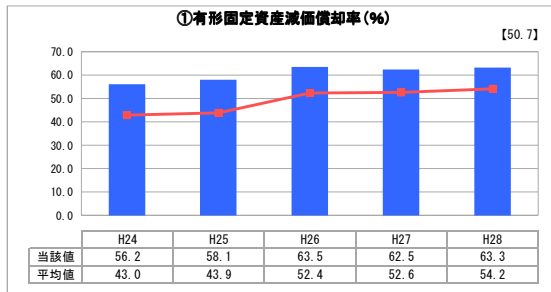
「収益の効率性①」

「収益の効率性②」

「費用の効率性①」

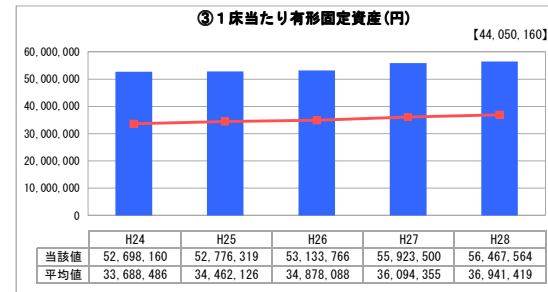
「費用の効率性②」

## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」

「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

## I 地域において担っている役割

見附市立病院は、市内唯一の入院できる病院であり、救急車の受入れを行い、地域医療を担っています。県内の同規模の市では200～300床の病院が複数ありますが、見附市は94床の当院のみです。また、見附市の医師・看護師数は県平均を大幅に下回っており、地域において当院が果たしている役割は大きいと考えられます。また、併設する老健「ケアプラザ見附」とともに、「医療・福祉の里」として市の健康政策も一体的に推進しています。長岡市の総合病院や市内医院と連携し、重症患者は長岡市の総合病院、中等症患者や回復期は当院と、それぞれの役割を分担し、円滑に地域医療が機能するよう努めています。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

④ 病床利用率は、年度でばらつきがありますが、ほぼ75%を越えており、類似病院比でH27年度からは10%ポイント程度高く、効率的な病床利用ができています。⑤ 入院患者1人1日当たり収益は、ほぼ横ばいで推移しています。類似病院比で1.3倍高く、⑥ 外来は1人1日当たり収益は減少傾向ですが、類似病院比で1.7倍であり、入院・外来とも比較的高度な医療を提供していると考えられます。⑦ 職員給与と費対医業収益比率は、年々上昇傾向ですが、類似病院比でH28年度は4.3%ポイント低減しており、人件費は比較的抑制されています。⑧ 材料費対医業収益比率は、H25年度から減少傾向ですが、類似病院比でH28年度は7.6%ポイント劣っています。② 医業収支比率は、ほぼ横ばいで推移しています。H26年度の低下は会計制度改正のためですが、類似病院比10%ポイント程度高い値を保っています。① 経常収支比率は、会計制度の改正によりH26年度は大幅に悪化しましたが、H28年度は一般会計補助金によりH25年度と同程度となりました。類似病院比でH27年度は4.0%ポイント劣っているところ、H28年度は0.2%ポイント差まで改善しました。③ 累積欠損比率は年々増加していますが、類似病院比で半分以下となっています。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は年々増加しています。類似病院比でH28年度は9.1%ポイント高く、固定資産の老朽化が進んでいます。特に② 機械備品減価償却率については類似病院比でH28年度は12.4%ポイント高く、医療機器の老朽化が顕著です。③ 1床当たり有形固定資産は、年々増加しています。類似病院比では各年度とも高く、H28年度は19,526千円高額です。これは病院建設が平成2～4年度であり、バブル景気により建築単価が高額で、同指標の値が比較的高かったところに、電子カルテシステムなど新たに必要固定資産が増えていることによるものです。

### 全体総括

経営の健全性・効率性については、材料費対医業収益比率が高く、経営を圧迫しています。収益性のある薬品の採用や、価格交渉による値引き率の向上など、改善にむけた取組を行うことで、年々低下傾向にありますが、今後もさらに改善の努力をしていきます。材料費対医業収益比率以外の指標は、類似病院と比べ優れています。ただし、病床利用率は70%代のため、さらに上昇させる余地があると考えられますが、医師の確保等に課題があります。施設の老朽化の状況は、特に医療機器で進んでおり、医療機器更新のサイクルを短くするためにも経営改善が必要です。また、建物も建築後24年が経過し、今後、大規模改修や建替等の必要があり、病床利用率の上昇の取組みと併せて検討が必要です。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。